



# コンクリート構造物表面保護工法

(弾性型ポリマーセメント系表面保護工法)

## セメンテックスRB-エラスⅡ工法

### 標準施工要領書

**オバナヤ・セメンテックス株式会社**

68/19-01

## コンクリート構造物表面保護工法

[東海道新幹線鉄筋コンクリート構造物維持管理標準  
コンクリート表面保護材B種準拠]

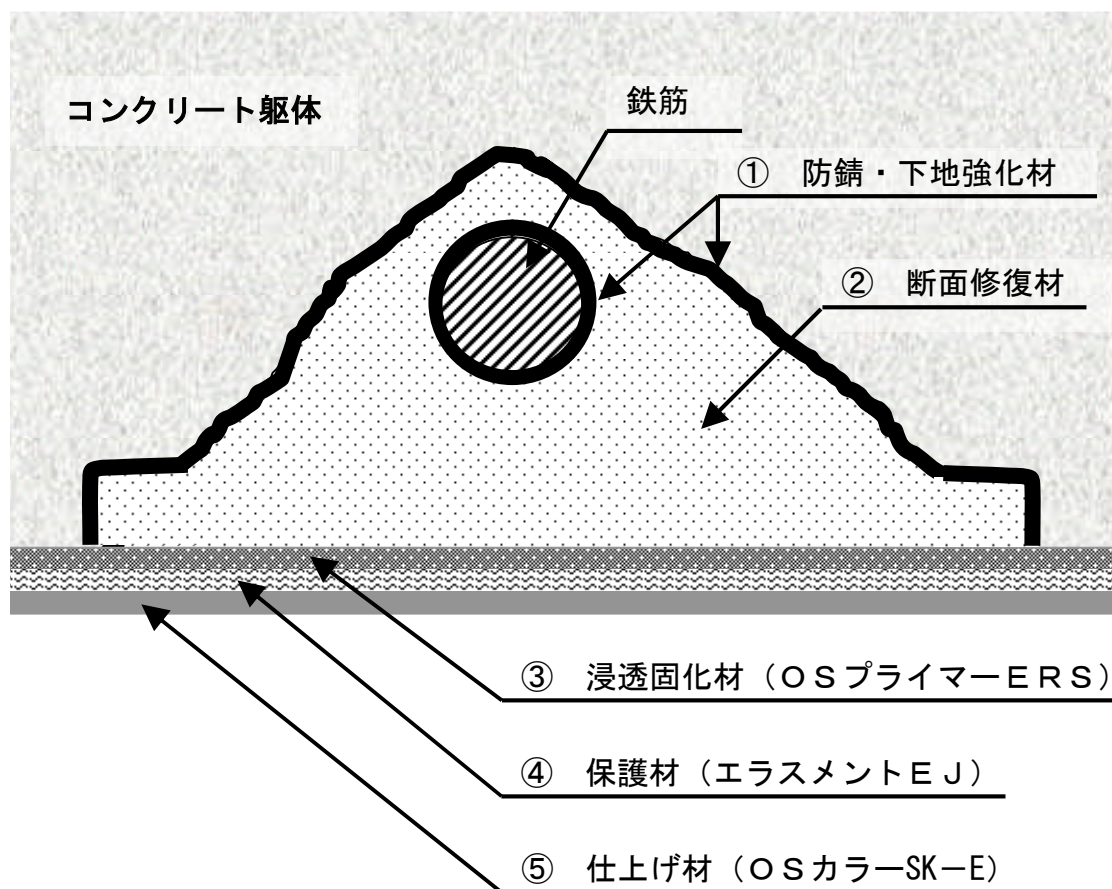
# セメンテックスRB-エラスII工法

(弾性型ポリマーセメント系表面保護材料仕様)

セメンテックスRB-エラスII工法は、劣化したコンクリート構造物の鉄筋腐食部・断面欠損部を修繕した後、表面に中性化および塩害等による劣化の進行を抑制するためにライニングをする表面保護工法です。

本工法は、弾性型ポリマーセメント系材料と弾性塗料の総合塗膜で構成されています。

特に、伸び弾性に優れ、躯体のひび割れに対する追従性・中性化抑止性・酸素透過抑止性の機能を有し、適度な水蒸気透過性を有しているため、表面保護材の付着性を長期に安定させます。



※ ③・④・⑤の工程を総称して、表面保護工法と呼びます。

## 施工方法と使用材料

### ☆ 素地調整工

- コンクリート表面の脆弱部、レイトンス、塵埃、油脂類、苔類などライニングを行う上で支障となる有害物を確実に除去してください。
- 素地調整は原則として吸塵式バキュームブラス、ウォータージェットを用いてください。使用が困難な場合には協議の上、吸塵式サンダー、吸塵式カップサンダーを用いてください。

### ☆ はつり工、鉄筋防錆工・断面修復工

別途断面修復工法に準じて行ってください。

### 工程 1. 浸透固化材（プライマー材）塗布工

コンクリート下地の脆弱部の浸透固化材として、OSプライマーERSを全面にハケまたはローラーにて塗布してください。

このプライマーは、湿気硬化型一液溶剤系エポキシプライマーですので、下地が湿潤状態でも水分と反応硬化します。

施工器具：ローラー、刷毛

| 材料                   | 塗布量                           | 塗布面積              | 工程間隔                   |
|----------------------|-------------------------------|-------------------|------------------------|
| OSプライマーERS<br>16kg缶入 | 0.15kg/m <sup>2</sup><br>1回塗り | 106m <sup>2</sup> | 1時間以上<br>7日以内<br>(20℃) |

※ 下地の吸い込みにより塗布量が異なります。

## 工程 2. 主材塗布工

伸び弾性のあるエラスメントEJは、躯体のひび割れ等による動きがあった場合でも追随性があるので、ひび割れからの水分・酸素・炭酸ガス等の浸入を阻止します。

エラスメントEJを2回塗布します。

大きなピンホール・巣穴・目違いは事前にエラスメントEJをパテ状にしてタッチアップして処理すると仕上がり精度が向上します。

施工器具：マスチックローラー、刷毛、コテ

### 主材下塗り

| 材料   | 使用量                             | 塗布面積             | 工程間隔           |
|--|---------------------------------|------------------|----------------|
| エラスメントEJ<br>51kgセット<br>〔粉体 11kg×3袋<br>混和液 6kg×3袋<br>調整水 0~2.4kg<br>(セット当り) | エラスII工法<br>1.0kg/m <sup>2</sup> | 51m <sup>2</sup> | 2時間以上<br>(20℃) |

※ 下塗りは、マスチックローラー等で材料を塗布してからゴムコテでしごく  
と巣穴・不陸が埋まり平滑な仕上がり面となります。

### 主材上塗り

| 材料   | 使用量                             | 塗布面積              | 工程間隔                   |
|--|---------------------------------|-------------------|------------------------|
| エラスメントEJ<br>51kgセット<br>〔粉体 11kg×3袋<br>混和液 6kg×3袋<br>調整水 0~2.4kg<br>(セット当り) | エラスII工法<br>0.5kg/m <sup>2</sup> | 102m <sup>2</sup> | 塗布後<br>16時間以上<br>(20℃) |

特記) 下塗りと上塗りの工程を施工管理する場合、上塗りは顔料(黒)を添加して淡灰色にしてご使用ください。

※ マスチックローラー仕上げと、コテ塗り仕上げでは、表面のパターンが異なります。

### 工程3. 仕上げ材塗布工

耐久性向上と美装を目的として、弾性タイプOSカラーSK-Eを全面に2回塗りしてください。

施工器具：ローラー、刷毛

| 材料                               | 塗布量                          | 塗布面積             | 工程間隔           |
|----------------------------------|------------------------------|------------------|----------------|
| OSカラーSK-E<br>16kg缶入り<br>調整水 0～5% | 0.3kg/m <sup>2</sup><br>2回塗り | 53m <sup>2</sup> | 1時間以上<br>(20℃) |

※コンクリート色（日本工業規格の色見本番号UN-75）を標準とします

特記）仕上げ材の2回塗りの施工管理を明確にするために色分けする場合は1回目を白色、2回目をコンクリート色で行ってください。

仕上げ材下塗り（白色）

| 材料                                | 塗布量                          | 塗布面積              | 工程間隔           |
|-----------------------------------|------------------------------|-------------------|----------------|
| OSカラーSK-EW<br>16kg缶入り<br>調整水 0～5% | 0.15kg/m <sup>2</sup><br>1回目 | 106m <sup>2</sup> | 1時間以上<br>(20℃) |

仕上げ材上塗り（コンクリート色）

| 材料                               | 塗布量                          | 塗布面積              | 工程間隔 |
|----------------------------------|------------------------------|-------------------|------|
| OSカラーSK-E<br>16kg缶入り<br>調整水 0～5% | 0.15kg/m <sup>2</sup><br>2回目 | 106m <sup>2</sup> | —    |

※コンクリート色（日本工業規格の色見本番号UN-75）を標準とします。

## ■使用上の注意事項

### (1) 材料配合上の注意事項

- 材料の練混ぜは仕様を十分に確認してから行ってください。
- 練混ぜに際しては、練りすぎによる泡の巻き込みに注意してください。
- 他の材料は一切混入しないでください。

### (2) 保管上の注意事項

- 材料の保管は直射日光を避け、常温（5～40℃）で保存してください。
- 保存が長期に渡ったものは使用しないでください。
- 保管はセメントと同様に取り扱い、一度開封して放置した商品は使用しないでください。
- 一度凍結した材料は絶対に使用しないでください。

### (3) 施工上の注意事項

- 5℃以下での施工は避けてください。やむをえず施工する場合は保温対策を講じてください。
- 湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、施工を避けてください。
- 強風及び降雨・降雪の場合、又はそれらが予想される場合は施工を避けてください。
- 暑中、寒中の施工においては、十分な養生のもと施工を行ってください。
- 施工後、凍結の恐れがある場合は、作業時間帯を熟慮して保温養生を行ってください。
- 施工後、12時間以内に降雨が予想される場合は、施工を避けるか、施工箇所雨水が掛からないようシートで覆うなどして養生してください。
- 気温の高いときは材料の可使用時間が短くなりますので、必要に応じ小分けして練混ぜてください。
- 気温・通風・直射日光・施工効率を考慮して、可使用時間内に使用できる量を決めて練混ぜてください。
- 施工しない箇所は、前もってポリエチレンフィルム等で材料が付着しないよう注意してください。
- 取り扱いに当たっては、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の安全保護具を着用してください。
- 施工器具類は使用後、速やかに水洗いしてください。
- 皮膚に付着した場合は、速やかに水で洗い流し、必要に応じて専門医の診察を受けてください。

※本商品の安全取扱い上の詳しい注意事項が必要なときは、安全データシート（SDS）をご請求ください。